

2024（令和6）年度 いずみ保育園 自己評価表

2025年 1月 15日 評価
評価者氏名 園長 十八公 浄滋
報告者氏名 主任 橘田 浩代

＜本園評価対象者＞
・主任1名 副主任2名 副主任補佐1名 保育士29名（内育休中2名）

1. 本園の教育・保育目標

保育理念・基本方針

保育園は、児童福祉法に基づき保育に欠ける乳幼児を保育することを目的とする児童福祉施設です。ここに入園している乳幼児が生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごすところであるから、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進し、養護と教育が一体となって、豊かな人間性を持った子どもを育成することが保育の特性です。

子どもは豊かに伸びていく可能性をうちに秘めています。子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を培うためにいずみ保育園の保育目標を次のように定め、人間像の形成をめざすものです。

根本精神

「あの子ども この子ども ほとけの子ども どの子ども どの子ども たいせつに」

保育目標

- 1. 報恩 （ありがとうと いえる子）
- 2. 協力 （みんな なかよくできる子）
- 3. 健康 （つよい からだの子）
- 4. 慈悲 （おてつだいの できる子）

2. 評価項目 （A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要するの4段階評価です）

自己評価の観点	
1. 園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について	評価
① 園の保育理念・保育方針・保育目標を理解し、かつ課題を共有している	B
<p>＜改善点＞</p> <ul style="list-style-type: none">・リーダー会議では意見を出し合い話し合う機会があるが、クラスで話し合う時間は少なかったように思う・方針などを理解したうえでねらいをたてる意識をする・毎月の自己評価にも見返すことにより理解していている・共有できている部分とできていない所があるので、全体で確認し共通理解できると良い・遅い時間まで残る子どもの疲れや、甘えたい気持ちを考えて動きたい・課題は共有できていると感じるが各クラスが独立しすぎていて、他のクラスの様子が全く分からない（特にひよこ組だからかもしれないが）・園の保育目標などを考えながら保育をしようと考えているが、忘れてしまうこともあった。課題を考えながら保育をできるよう心掛けていきたい・職員会議等で年1回程確認できるといいのではないと思う・新入職員にも丁寧に伝えたり、園でのルールを定期的に確認し合う機会を設ける・常に意識するようにする・園の理念などは毎月の自己評価で確認している。課題について各クラスでは話をするが全体ではない	

・私自身が園のHPで目にした目標しか知らないので、いただいている資料等を確認したいと思います	
2. 保育について	評価
① 一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	B
② 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	B
③ 評価、資料(初記録)を集積している	B
④ 園内清掃がなされ、清潔に保たれ、子供が心地よく過ごせるよう配慮している	B
⑤ 天候や子どもの活動にあわせ、温度・湿度・換気、照度など配慮している	A
⑥ 季節の草花など植える又は観賞する等、保育の中で子供が季節を感じるように配慮を行っている	B
⑦ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています	B
⑧ それぞれの子どもに関する必要な情報を共有している	B
⑨ 保育についての話し合いをよくしている	B
⑩ 保育士自身が楽しんで保育をしている	B
⑪ それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年は配置の入れ換えも多く、一貫性の保育がなされていなかったように感じている。クラス内での話し合いを多く取り入れるべきだった ・日々の保育やトラブル等に気をはって保育している部分が多くあるため、心にゆとりを持てるよう心がけていく ・行事に追われる中でも子ども達に沿ったねらいや活動を取り組みたい ・遊びがパターン化されているので自由に遊べる環境も取り入れたい ・各クラスの遊具玩具の位置利用をもう少し細く検討すると良い ・午前中、午後と担任が入れかわるのでクラスの進め方、子どもたちの成長などゆっくりと話す時間がとれない ・1日を通してのかかわりが無いが、自分の時間内で思いやりのある保育をしたい ・保育についての話し合いはなかなか全職員では難しい ・一人ひとりをよく見るようにして保育ができるように心掛けたが、全体を落ち着かせようとして、おそろかになってしまう事があったように感じた。今の対応の仕方であっているか不安に思う事もあるので、周りを良くみて楽しんで保育をしたい ・乳児が安心して外遊びできる環境があるとよい ・月案・週案に基づいて絵本や素材等を用意しているが、年間を通して保育環境にあまり変化がない ・早番時まだ遊んでいるがすぐ保育者が片付けてしまうようだが楽しんでいる⑦ので見守ってやることも必要 ・③→わからないことや資料について質問をして理解できるようにする ・⑦今あるものを上手く使い遊びを広げていけるようにしたい ・情報共有が行き届いていない時があるので全員が知っているか、全員に知らせたか確認が必要だと思われる ・子どもが興味のある遊びを考えているが一斉の要素が強いので、個々のやりたいことへと移行したい ・音楽会前など行事前の保育改善が必要と坎じる ・「伝わってこない」「知らされてない」が実行されていることがないようにしたい ・⑨久しぶりに入るクラスの時は注意の必要な事など伺うようにしていますが、あまり時間がないのでもう少し時間に余裕を持って出勤したいです 	
3. 健康管理について	評価
① 日々の園児の健康状態を観察し、一人ひとりの体調に合わせた保育を心がけている	A
② 玩具、遊具等については、常に衛生的に保持している	B
③ 乳幼児突然死症候群(SIDS)や感染症等の予防の対策やマニュアルが用意されている	A
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調について保護者としっかり情報共有していきたい ・感染症が流行した時は、まめに消毒を心がけていきたい ・一つひとつの対策を職員一人ひとりが把握する ・クラスの玩具の消毒の頻度を増やしたい 	

<ul style="list-style-type: none"> ・感染症時期、乳児はもう少しこまめに消毒していく ・子どもが口へ入れてしまったおもちゃは気づいたらすぐ消毒している ・日常的に使用している玩具の消毒をした方が良いかと思う ・部屋の玩具などの消毒をしっかりと行うようにしたい ・玩具の消毒はもっとこまめにやった方がよいが、なかなか時間がとれない ・②0歳児など口にする玩具もあるので、ふいたりして消毒、衛生面に気を付けた方がよい、ぬいぐるみ、本など破損している物の修理点検 ・朝の時点で園児一人ひとりの健康状態について把握する(欠席理由) ・②消毒等をもっとこまめに行う ・0歳児はよく玩具をなめたり、口にいれたりするが消毒が追いつかない時がある ・健康管理について気を配っているつもりだが、手の足りなさを感じることもある ・発熱の子、感染の可能性があっても別部屋に隔離することが困難な状況。その子を見てる人の確保は必要 ・子どもたちのちょっとした不調に皆さんよく気がつかれていると思います 	
4. 行事について	評価
① 行事の種類や実施回数は適切である	B
② 行事のねらいを計画や実施に十分に生かしている	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多く楽しいが、日々の保育がおろそかになってしまうこともあった ・少し行事に追われることが多い ・音楽会の内容をもうすこし子どもの育ち中心に行ってもよいと思う ・ひとつひとつの行事についてねらい・意義をしっかりと考えたい ・他園よりも行事は少ないと思う。誕生会と行事を一緒にせず別々にやった方が落ち着いてできるしるかも深まると思う ・音楽会の前の書面でねらいなどを頂けたので意識して取り組むことができた ・行事に追われた保育にならないように、目的や意義を全職員が把握し、練習等に取り組んでいきたい ・行事やお教室等の回数が多く日常の保育を行う回数が少ない。日常の保育(子どもが主体となり遊べる保育)を多くした方がよいと考える ・②→ねらいにそって行事を伝えているか考え、終了後は反省を見つける ・0歳児にも分かる参加できる行事や他クラスと交流できる行事があっても良いのでは思う ・行事については、いつもやっていることをあたりまえと思わずに、必要性や内容についてその都度考えるべきである ・クラスの月案や週案にはねらいがあるが、今回のこの行事の目標のような全体のものであっても良い。漠然としたものでも良い 	
5. 食育について	評価
① 食育を通して子供たちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	B
② 旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	B
③ 調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの食事の様子をローテーションで見に行ける様にしたい ・クッキングを定期的に行えてよかった。さつまいもの収穫の時もクッキングができて良かった ・年度初めなど1年の目標を立て、末には何か成果をあげられれば良い(保育士と話し合いも必要) ・保育者自身が食育について発信する機会は殆どないので、勉強していきたい ・調理師も保育室への訪問回数を増やし給食室との壁をなくし、子どもと一緒にもっとすごしてもよいと思う ・調理室との連携をより良くしていきたい ・職員が同じ給食を食べたり、調理担当者と一緒に食事をしながらふれあえる機会があっても良いと思う ・おやつ以後の出勤なのでよくわからない ・給食中様子を見に来て頂けている ・実際に食材に触れる機会、調理の見学など給食の先生と子どもの距離がもう少し近くなるともっと良いと思う 	

<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な物など、少しでも食べられるよう楽しい雰囲気食べられるようにしていきたい ・仕事中に会う機会が少なく、なかなかコミュニケーションをとれない ・三色食器群について食べ物列車などの掲示物をつくりわかりやすく掲示しておく ・食材には季節を感じられメニューも考えられているが、デザートがゼリーやヨーグルトが多く、もう少し季節のフルーツを提供できるよう考えた方がよい。又、栄養士は子どもとの関わりがあるが調理師も順に子どもが食べる時に巡回しコミュニケーションを図るようにするとよい ・②→季節の食材について、食事をしながら子どもたちへ伝えていきたい ・旬のものや食材を見せる機会がもっと欲しい ・給食室と協力し、食育について話し合っすすめていった方がいい ・もっと食育を学べる機会(教材)があると保育に活かそうー共有したい ・季節や行事に合わせた食材が使われているのをよく目にします 	
6. 運営について	評価
① 園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある	B
② 各種会議を適切かつ効率的に進めている	B
③ 打合せ回数、時間、内容は適切である	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な意見の交換の場であり大切にしていきたいが、時間を過ぎてしまうこともあり、クラスが心配になることもある ・会議の開始時間にはじまらず、後ろにずれて会議の終了が遅くなるので時間通りに始めてほしい ・内容にもあるかもしれないが時間がずれ込まないようにしてほしい ・伝達ばかりになってしまうので、リーダー以外の先生も会議に参加し、聞くことができるとより良いのかなと思う ・打合せ回数内容は良いと思います。3役で決められること全員で話し合いたいことなど検討して頂いて、子どもさんのいる先生も多くなっていますので、打合わせ時間が長くないのが良いと思います(音楽会の反省の時感じました) ・すぐに会議実施はよいが時間配分が悪くすぐに会議反省会に時間が伸びてしまう ・打合わせ、会議の時間の見直し(保育に支障のないように) ・会議が子どもが起きる時間をすぎても終わらないことがあるので時間内に終わると良い。14時40分ぐらいまでに終わると伝達もその日のうちにできる ・リーダーからの伝達をしっかり受けている ・事故の報告など、主任、副園長、園長それぞれ伝えないと伝わらないことがある為、連絡系統を定めてほしい ・会議時間が長くなり、15:00を過ぎてしまうことが多い ・会議・打合せの時間が予定よりも長くなることが多く、他のことの目処が立てづらい ・経験を積んで園全体の運営について理解を深めたい ・終わりの時間を決め、その時間に切り上げられるようにしたい ・会議が長時間になるので事前に資料等配布する等して予習してから重要点について説明する等すると良いのでは… ・打ち合わせがなかなかできないことがあり、進まないことがある ・保育時間内での会議になっている。その為手薄になり、時間が押す場合、子どもへの影響が大きい。時間を見直したい ・先生方のチームワークの良さと的確なご指示で安心して居させて頂いています 	
7. 保健・安全指導について	評価
① 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じている	B
② 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している	A
③ 事故や災害に適応できるマニュアルをすぐに見ることができるようにしている	B
④ 廊下に落ちているものを拾ったり、トイレやベランダのスリッパを揃える心がけをしている	A
⑤ 室内の衛生、クラス廻りの清掃に心がけ気持ち良い環境に心がけている	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを事故等で起きる前に確認する意識づけをしていく ・④、⑤は保育者だけでなく、子どもたちも意識できるようにしていきたい 	

<ul style="list-style-type: none"> ・早、遅、土などの災害時の対応がわかりづらい ・具体的保健対策とは何か周知する必要がある ・保育室の掃除は安全面を考えた上でもクラスの保育者が掃除をすることが良いと思います。例（細かな物が落ちている。危険箇所発見につながる為） ・避難訓練は計画に基づいているがいつ災害が起こるかわからないので、突発的にやってみて、また改善が必要なことも出てく ると思う ・立场上おそうじをすることが多いのでホコリやゴミには気をつけたい ・どこにあるのか知りません。すみません ・保健対策が職員によって統一されていないことがある為、統一しておくといいと思う ・備蓄品の確認等を話し合いをもとに見直していく ・マニュアルがどこにあるのか確認する ・③目に見える場所に掲示があっても良いかもしれない ・避難訓練は想定をもう少し変えても良いと思う。朝や夕方の訓練も必要かと思う ・掃除が最低限のところになってしまいがちである ・マニュアルは作成した人とあるいは一部の人のみの理解になっている。「———となっているはず」と言われ否定されても困る。 気持ちよく「知る」機会を作りたい ・マニュアルの保管場所についてしっかりわかっていないので確認したいと思います 	
8. 研修・研究について	評価
① 実践研究に取り組み、日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させている	B
③ 部内・部外研修への参加態勢の充実を図っている	A
③ 研修報告を園内で実施している	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修報告を実際に本人にきく機会があるともっと伝わってくるものがあるのではないかと感じた ・他の保育士の研修報告をしっかりみていきたい ・自分自身が実践研究に取り組めていないと感じる。年齢に合ったものを勉強する ・園内回覧はあるが報告を増やしても良いかもしれない ・口頭での研修報告があると嬉しい ・研修は正規職員だけではなくパートの先生達も参加できる機会を増やしたり、報告は回覧以外でもみんなで聞ける機会を 作っても良いと思う ・研修で日頃接点が少ない職員の話を聞くのはとても勉強になる ・報告書は目を通していているが報告会は実施されていない ・研修の内容を園内に取り入れていけるといいと思う ・研修報告を読んで自分だったらどこに生かせるのか考えて行動する ・リズムックや運動あそび等実用的なものも参加したい ・1年間のテーマを決めて研究するのも良いと思う ・書面での報告だけでなく、園内研修での報告も再開していきたい ・研修報告は回覧にしている。時間に限りがあり「早く回して」により、殆ど見れない。保管し、自由に見れるようになりたい。 ・研修は日時のご連絡などもしっかり頂けていて、楽しく興味がわく必要な内容なので、いつも参加させて頂いてすぐためになります 	
9. 情報について	評価
① 園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している	A
② 園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している	A
③ 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理している	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか保育時間内で仕事が終わらないことがある 	

<ul style="list-style-type: none"> ・児童票は、各年齢・月齢で視点をいくつか決め、それに沿ってできる、まだできていない等の評価でも良いと思う ・短時間パートの職員も、回覧で知ることができて良いと思う ・適切に扱われている ・③時間がなく、持ち帰ることがある ・保育時間内にできないことがある ・②今後も気をつけます 	
10. 設備について	評価
① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている	A
② 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している	A
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物が多く、見にくい ・掲示忘れや、お知らせをしっかりとしていきたい ・各クラスではきめ細かく掲示されているが、玄関前や廊下、園のお知らせ、個人の掲示物などいろいろまざっていて大切なことを見落としそう。何年も同じ掲示物がある ・引き続き行っていく ・感染症の人数の掲示で心の準備ができる ・目につきやすいよう、各クラス工夫されている ・掲示板はホワイトボードの方が見やすく、聞き直しやすいのでは、と思う。また、掲示は1ヶ所にまとめた方が保護者も見やすいと思う ・掲示情報が整理されているか確認し、自身もしっかり読んでおく ・掲示物が多すぎて貼り切れないことがある ・保護者などへの掲示などは、伝わりやすく常に考えていく ・②いつもきれいな状態にされていると感じています 	
11. 保護者支援について	評価
① 子どもの送迎時に子どもの様子を伝えあうようにしている	A
② クラス懇談や個別懇談を行っている	B
③ 入園説明会やクラスごとの懇談会などでは保育内容や目的をわかりやすく説明し、情報提供をおこなっている	B
④ 保育参観等の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子をしっかりと保護者に伝えられるよう子どもをみていきたい ・今以上保育を理解してもらうために全員に参加保育をしてもらう ・保護者全員に一斉に伝えられる機会が少ない為、工夫が必要だと感じる ・早番、遅番を利用している保護者とは話す機会が減ってしまう。クラスだよりとかで参加保育で多かった悩みなどのアドバイスを入れたりしていく ・遅番なので帰りに安心してもらえるような良かった出来事があれば伝えるようにしている ・年度内に全員に行ってもらえるよう声を掛けている(参加保育) ・送迎時ではお互いにお忙しく話しができないこともあるので年に1回は懇談を行っても良いのではないかと思います ・行事等で保護者が仕事の調整をしなければならない時は、早めに伝えた方がよい ・情報提供を丁寧に行っているが、理解が難しくなかなか伝わりにくい家庭が増えている為、伝え方を考えていきたい ・朝の受け入れ時に保護者と会話をする ・参加保育が休みが少ない保護者に負担になっているように思う ・日頃から保護者との信頼関係を築いていくことを意識していく ・先生方がお迎えの親御さんに今日のお子さんの様子を必ず伝えられているのをよく耳にします 	
12. 開かれた保育所づくりについて	評価
① 園庭や保育室等を、地域の子育て親子等に開放している	B

② 職員による園児に係る「子育て相談」は充実している	B
③ 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している	B
④ 中高生の職場体験や実習生の受け入れ体制について、その意義や方針を全職員が理解している	B
⑤ 来客や地域の方に積極的に明るく挨拶をしている	A
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と関わる機会を少しずつ増やしていきたい ・園庭開放等で一緒に遊べる場があると良いと思う ・徒歩で通勤、いずみ保育園の職員だとわかるので明るい挨拶を心がけている ・園庭で自由に遊んでもらう時間もあるとよいと思う ・散歩の経験を増やしていきたい ・園庭開放等を回数を多くし、園児と地域の親子とのふれあいの時間を多くとる様にする ・あいさつは常に明るく自分からできるようにする ・ネームカードホルダーで来客が分かりやすくなったが、園内にいる来客者にもネームカードを着けてもらうことでより安心が出来ると思う ・園庭開放など、これから改善予定である ・健診結果などが伝わらない状況にある。時間がかかるであろうが連携したい ・私が方針については理解していなかったので、資料など確認してみます 	
13. 情報発信について	評価
① 園だより、ホームページ等で、情報発信に努めている	B
② 行事や子育て支援等を、地域や小学校に対して周知している	B
<p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスだよりもっと絵本等の紹介をしていきかけた ・どこまで発信しているか、職員が把握する ・園全体で進めてくれているが、個々で理解できていないところもあるので、活動なども共通理解できていくようになれば良い ・コロナがあけて、地域の方を行事に招待できるようになったので、地域に周知することも含めて活発に行っていく ・HP の QR コードを知らない家庭も多いので、もう一度周知してもらう。HP の発信率をあげたい ・①→定期的にチェックをする ②→どんなふうに周知をしているのかまず知る ・②知らないことが多い。学んでいきたい ・地域の方へ運動会等案内があったが小学校へ向けて案内しているのか分からない ・コロナがあけたので、これからもっと地域などに、行事などをお知らせしていくといい ・クラス前にも今日の様子が手書きでされていて、先生方お忙しいのにすごいないつも思います 	

<課題と検討>

一年間を通して防犯対策や様々な訓練・研修を実施し、日々の保育活動の中で子どもたちの安全と成長に目を向けて保育に取り組んできました。保育者の中にはお互いに意見を共有しながら連携を図り、園全体として共通理解を深めていこうと意識する姿が見られるようになってきていることも、園が取り組んできた人材育成の大きな成果だと思います。これらによって職員間のコミュニケーションも円滑になり、実際に会議や日々の保育を通してお互いの学びを共有する機会が増えてきています。また職員は総じて改善意欲が旺盛で、子ども一人ひとりの気持ちを丁寧に受け止め、よりよい関わりを意識する姿勢が見られています。

今後はこれまでの経験を踏まえ、より客観的な自己評価を行いながら、子どもや保護者に寄り添った保育を目指していきたいと思います。全体として充実した一年でしたが、様々な就業形態の保育者が混在するようになってより一層園内情報共有の必要性が増していることや、保育環境の変化に対する保育士の戸惑い等、様々な次年度への課題や進むべき方向性が明確になった実りある期間であったと思います。